

安全データシート

作成日 2013年 7月29日

改訂日 2021年10月28日 1/8頁

SDS No.1010-44006

1 化学品及び会社情報

化学品の名称 : キャピラリーカラム検査試料 F
供給者名 : ジーエルサイエンス株式会社
住所 : 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F
電話番号 : 03-5323-6611
FAX番号 : 03-5323-6622
緊急連絡先 : ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表)
製品コード : 1010-44006、1021-
整理番号(SDS No.) : 1010-44006
推奨用途 : 標準物質(日本産業規格(JIS)Q0030に定めるもの)
使用上の制限 : 試験・研究用

2 危険有害性の要約

GHS分類 : 引火性液体 : 区分2
皮膚腐食性/皮膚刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分2 (血管系)
区分3 (気道刺激性、麻酔作用)
水生環境有害性 短期 (急性) : 区分1
水生環境有害性 長期 (慢性) : 区分3

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 :

H225 引火性の高い液体および蒸気
H315 皮膚刺激
H319 強い眼刺激
H335 呼吸器への刺激のおそれ(気道刺激性)
H336 眠気やめまいのおそれ(麻酔作用)
H371 臓器の障害のおそれ (神経系)
H400 水生生物に非常に強い毒性
H412 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

[安全対策] :

P210 熱、高温のもの、火花、裸火、及び着火源から遠ざけること。禁煙。
P233 容器を密閉しておくこと。
P240 容器を接地しアースをとること。
P241 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器等を使用すること。
P242 火花を発生させない工具を使用すること。
P243 静電気放電に対する措置を講ずること。
P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P264 取り扱い後は手をよく洗うこと。
P270 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
P271 屋外または換気の良い場所でだけ使用すること。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋/保護衣/保護めがね/保護面を着用すること。

[応急措置]	:	
P302+P352	:	皮膚に付着した場合：多量の水と石けんで洗うこと。
P303+P361+P353	:	皮膚または髪に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水/シャワーで洗うこと。
P304+P340	:	吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P305+P351+P338	:	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P308+P311	:	ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
P312	:	気分が悪いときは医師に連絡すること。
P332+P313	:	皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。
P337+P313	:	眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。
P362+P364	:	汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
P370+378	:	火災の場合：消火するために適した消火剤を使用すること。
P391	:	漏出物を回収すること。
[保管]	:	
P403+P233+P235	:	換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。
P405	:	施錠して保管すること。
[廃棄]	:	
P501	:	内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託すること。

上記で記載がない危険有害性は分類できない、分類対象外または区分に該当しない。

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分	:	混合物
化学名または一般名	:	キャピラリーカラム検査試料 F

化学名(又は一般名)	濃度	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法	安衛法	
シクロヘキサン	>96%	C ₆ H ₁₂	3-2233	--	110-82-7
n-トリデカン	0.1~0.5%	C ₁₃ H ₂₈	2-10	--	629-50-5
2,4-ジメチルフェノール	0.1~0.5%	C ₈ H ₁₀ O	3-521 / 4-57	--	105-67-9
1-デカノール	0.1~0.5%	C ₁₀ H ₂₂ O	2-217	--	112-30-1
2,4-ジメチルアニリン	0.1~0.5%	C ₈ H ₁₁ N	3-129	--	95-68-1
ナフタレン	0.1~0.5%	C ₁₀ H ₈	4-311	--	91-20-3
デカン酸メチル	0.1~0.5%	C ₁₁ H ₂₂ O ₂	2-782 / 2-798	--	110-42-9
n-ペンタデカン	0.1~0.5%	C ₁₅ H ₃₂	2-10	--	629-62-9

4 応急措置

吸入した場合	:	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。気分が悪い場合は医師の手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	:	石鹼と大量の水で洗い流す。刺激が直らない場合、炎症を生じた場合には医師の手当てを受けること。
眼に入った場合	:	水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを外し、少なくとも15分以上大量の水で眼を洗う。直ちに医師の手当てを受ける。眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	:	口をすすぎ、直ちに医師の手当てを受けること。無理に吐かせないこと。
暴露した場合	:	医師に連絡すること。汚染された衣類は再使用する場合には洗濯をすること。

急性症状および遅発性症状の

最も重要な徴候症状 : 蒸気吸入により、一時的な呼吸器刺激性、めまい、衰弱、疲労、悪寒や頭痛などの症状を生じる。接触により眼や皮膚の発赤、痛み、皮膚の乾燥などが生じる。誤飲により腹痛やめまいが生じる。

応急措置をする者の保護 : 救助者は適切な保護具を着用すること。

5 火災時の措置

適切な消火剤 : 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素

使ってはならない消火剤 : 棒状水

火災時の特有危険有害性 : 火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム(またはガス)が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
加熱により容器が爆発するおそれがある。
極めて燃えやすく、熱、火花、火炎で容易に発火する。

特有の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な処置をする。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
容器が熱に晒されているときは、移さない。
安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火を行う者の保護 : 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。呼吸保護具を着用する。消火後再び発火するおそれがある。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、

保護具及び緊急時措置 : 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、蒸気/ミスト/粉じん/ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。

環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

封じ込めおよび浄化の方法および機材

: 適切な保護具をつけて処理すること。土砂・吸着剤などに吸着させて取り除く。密閉できる空容器に集めて適切に処分する。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 火気厳禁。高温物、スパークを避け、強酸化剤との接触を避ける。
屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。
機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。
作業衣、作業靴は導電性のものを用いる。

安全取扱注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに蒸気/ミスト/粉じん/ガスを発生させない。
吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。
取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

衛生対策 : 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。
指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。
休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。

保管

適切な保管条件 : 保管場所で使用する電気機器は防爆構造とし、機器類はすべて接地する。
容器は直射日光を避け、冷蔵庫(2~10℃)に密閉して保管する。

避けるべき保管条件 : 火花、高温、スパーク、混触危険物質との接触を避ける。

技術的対策 : 換気のない場所で容器を密閉し保管する。日光から遮断すること。火気厳禁。

混触危険物質 : 強酸化剤、強塩基、強酸、火源の近くに保管しない。

安全な容器包装材料 : ガラス等

8 ばく露防止及び保護措置

設備対策 : 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、局所排気装置を設置する。
取り扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

管理濃度 作業環境評価基準 許容濃度 :

成分名	管理濃度	日本産業衛生学会	ACGIH TLV-TWA
シクロヘキサン	設定されていない	150 ppm	100 ppm
ナフタレン	10 ppm	設定されていない	10 ppm
2,4-ジメチルフェノール	設定されていない		1 ppm
その他の成分	設定されていない		

保護具

呼吸器の保護具 : 保護マスク
手の保護具 : 不浸透性保護手袋
眼の保護具 : 保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具 : 保護衣・保護長靴

適切な衛生対策 : マスク等の吸着剤の交換は定期又は使用の都度行う。

9 物理的及び化学的性質

製剤としてのデータがないため、シクロヘキサンのデータを記載する。

物理状態 : 液体
色 : 無色
臭い : 石油ベンジン臭
融点/凝固点 : 6.0~7.0℃
沸点または初留点 : 80.7℃
可燃性 : データなし
爆発下限界及び爆発上限界 : 1.33%(加減)~8.35%(上限)
引火点 : -20℃ (タグ密閉式)
自然発火点 : 245~260℃
分解温度 : データなし
pH : データなし
動粘性率 : データなし
溶解度 : 水に難溶
溶媒に対する溶解性 : エタノール、ジエチルエーテル等ほとんどの有機溶媒に任意の割合で混和する。
n-オクタノール/水分分配係数
log Po/w : 3.4
蒸気圧 : 13.0 kPa (25℃)
密度及び/または相対密度 : 0.78g/mL (20℃)
相対ガス密度(空気=1) : 2.9
粒子特性 : 該当しない

10 安定性及び反応性

反応性 : 熱に不安定。移送時の流動、噴霧、漏れ等の際に静電気を発生しやすく、僅かな放電で引火する危険がある。
化学的安定性 : 熱に不安定。移送時の流動、噴霧、漏れ等の際に静電気を発生しやすく、僅かな放電で引火する危険がある。
危険有害反応可能性 : 酸化剤や過酸化剤との接触で火災や爆発を起こすことがある。
避けるべき条件 : 日光、熱、裸火、高温、スパーク、静電気、その他発火源、混触危険物質との接触
混触危険物質 : 強酸化剤、酸性化合物
危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素、二酸化炭素など

1.1 有害性情報

- 急性毒性(経口) : 毒性未知成分が0.1%以上なので、分類できない。
- 急性毒性(経皮) : 毒性未知成分が0.1%以上なので、分類できない。
- 急性毒性(吸入：蒸気) : 毒性未知成分が0.1%以上なので、分類できない。
- 急性毒性(吸入：粉じん、ミスト) : 毒性未知成分が0.1%以上なので、分類できない。
- 皮膚腐食性/皮膚刺激性 : 区分2の成分合計が濃度限界(10%)以上のため、区分2に該当。
- (2,4-ジメチルフェノール) : ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、本物質の適用により腐食性がみられたとの報告 (EPA Pesticide RED (1994)) や、本物質は皮膚に対して腐食性を示す (環境省リスク評価第5巻 (2006)、EPA Pesticide Fact Sheet (1994)) との記載が複数ある。
- (シクロヘキサン) : ウサギ及びヒトにおいて皮膚刺激性があるとの記載 (DFGOT vol.13(1999)、EU-RAR(2004)、ACGIH(7th, 2002)、ICSC(J)(1994))がある。ウサギでは反復投与により皮膚に亀裂を生じ出血を認めたが、投与終了後1週間では軽快し (DFGOT vol.13(1999))、ヒトに原液を1時間付着させた場合、発赤とみみずばれを生じたとの記載 (EU-RAR(2004))があるが、これも回復性の障害と考えられる。
- (1-デカノール) : ウサギを用いた皮膚刺激性試験 (OECD TG404、GLP)で本物質原液を4時間、半閉塞適用したところ紅斑スコアは1.9、浮腫スコアは0であり、10日間で回復したとの報告がある (SIDS Dossier(2006))。
ウサギを用いた皮膚刺激性試験 (OECD TG404、GLP)で本物質原液を4時間半閉塞適用したところ、72時間で紅斑スコア2.15、浮腫スコア1.15、PII=3.33であり、7日間では十分に回復しなかったとの報告がある (SIDS Dossier(2006))。
ウサギを用いた皮膚刺激性試験 (EPA OPPTS 870.2500、GLP)で本物質原液を4時間、半閉塞適用したところPII=2.8が得られたとの報告がある (REACH登録情報 (Accessed Oct. 2018))。
- 眼に対する重篤な損傷性/
眼刺激性 : 眼区分2の成分合計が濃度限界(10%)以上のため、区分2Aに該当。
- (2,4-ジメチルフェノール) : 本物質は眼に対して腐食性を示す (環境省リスク評価第5巻 (2006)) との記載がある。また、本物質は皮膚腐食性/刺激性の分類で区分1に分類されている。
- (シクロヘキサン) : ウサギで角膜混濁、虹彩炎、結膜充血・浮腫がいずれも可逆的にみられた (EU-RAR(2004))ほか、動物及びヒトで眼に刺激性があるとの記載 (PATTY(6th, 2012)、EU-RAR(2004)、ICSC(J)(1994)、HSDB(Access on July 2013))がある。
- (2,4-ジメチルアニリン) : OECD TG準拠の眼刺激性試験で「irritating」 (DFGOT vol.19(1998))の旨、記述されている。また、BUA 161(Summary, 1994)には、「eye : irritant」と、記述されている。なお、環境省リスク評価書第6巻(2008)には、ヒトへの影響の項に「眼を刺激し、・・・眼に入ると発赤、痛み」との記述がある。また、引用文献のICSC(2007)には、EFFECTS OF SHORT-TERM EXPOSUREの項に「irritating」と、記述されている。
- (1-デカノール) : ウサギを用いた眼刺激性試験 (OECD TG405、GLP)で本物質 (Kalcobl 1095 : C10 95%超)原液を適用したところ、48時間後に軽度から中等度の結膜炎、ごく軽度から軽度の角膜混濁と虹彩炎が全例に見られた。4日目にも全例に軽度の結膜炎、1例にわずかな領域で角膜混濁が見られ、軽度の結膜炎は適用後15日目まで続いたとの報告がある (SIDS Dossier(2006))。
本物質はウサギの眼に対して刺激性を示すことが報告されている (SIDS(2006)、Patty(12th, 2012))。
ウサギを用いた眼刺激性試験 (EPA OPPTS 870.2400、GLP、n=3)で本物質 (Alfol 10)原液を適用したところ、結膜スコア : 2、結膜浮腫スコア : 1.4が得られ、7日以内で共に回復したとの報告がある (REACH登録情報 (Accessed Oct. 2018))。
- 呼吸器感作性 : データ不足
- 皮膚感作性 : 毒性未知成分を含有しているため、分類できない。
- 生殖細胞変異原性 : 毒性未知成分を含有しているため、分類できない。
- 発がん性 : 毒性未知成分を含有しているため、分類できない。
- 生殖毒性 : 毒性未知成分を含有しているため、分類できない。

特定標的臓器毒性

- (単回ばく露) : シクロヘキサンが96.5% \geq 10%のため、区分2(血管系)に該当。区分3(気道刺激性、麻酔作用)の成分合計が96.5%であり、濃度限界(20%)以上のため、区分3(気道刺激性、麻酔作用)に該当する。
- (2,4-ジメチルアニリン) : 動物については、ラットを用いた4時間吸入暴露試験において、「過呼吸がみられた」(DFGOT vol.19(1998))旨の記述と、ラットの致死量を求める経口投与試験において、「投与約1時間半後にメトヘモグロビンが産生された」(DFGOT vol.19(1998))旨の記述がある。これらの症状は全て区分1のガイダンス値の範囲内でみられた。本物質のヒトについてのデータはないが、DFGOT vol.19(1998)には、「異性体である2,6-xylydineがヒトにメトヘモグロビン血症を引き起こした」との報告が記述されている。なお、ICSC(2007)には、「高濃度暴露すると、意識低下を引き起こすことがある。高濃度に暴露すると、メトヘモグロビンを生成することがある。これらの影響は遅れて現れることがある。医学的な経過観察が必要である」旨の記述があるが、投与量などの詳細については不明である。
- (ナフタレン) : ヒトへの影響で溶血性貧血が認められたとの複数の報告(ACGIH (7th, 2001)、EU-RAR (2003)、NTP TR500 (2000)、ATSDR (2003))がある。また、ヒトで経口摂取により白内障発症の報告例(DFGOT vol.11 (1998))があり、かつ動物試験でウサギに経口投与(1000~3000 mg/kg)による所見として、白内障(ACGIH (7th, 2001))および角膜混濁(DFGOT vol.11 (1998))の記載がある。さらに、気道に対する同様な影響はマウスに0.1~0.35mg/Lを4時間吸入ばく露した場合にも認められている(DFGOT vol.11 (1998)、IARC 82(2002)、EHC 202 (1998))。なお、マウスを用いた経口投与試験において、区分2のガイダンス値内(400mg/kg)で、気道支上皮に肥厚、空胞化、剥離、壊死などの傷害が見られ、特にクララ細胞で特異的であった。
- (シクロヘキサン) : 多くの動物種において、吸入ばく露による中枢抑制作用が報告されており(ACGIH(7th, 2002))、麻酔作用があると考えられるが、ばく露濃度が明らかではない。ウサギの経口投与において、区分2のガイダンス値範囲内の用量で血管損傷がみられたとの記述がある(ACGIH(7th, 2002))。
- (2,4-ジメチルフェノール) : 詳細なデータではないが、本物質の影響は気道に腐食性を示し、また経口ばく露でも腐食性がみられ、エアロゾルの吸入では肺水腫を起こすことがある。経口摂取で灼熱感、腹痛、吐き気、嘔吐、吸入ばく露で灼熱感、咳、咽頭痛、息切れとの記載(環境省リスク評価第5巻(2006))があり、本物質は呼吸器に影響があると判断した。環境省リスク評価第5巻(2006)の出典はICSCであり、具体的なデータはない。

特定標的臓器毒性

- (反復ばく露) : 毒性未知成分が1%以上なので、分類できない。
- (2,4-ジメチルアニリン) : 区分1のガイダンス値の範囲内で、「ラットの雄で肝臓の絶対及び相対重量の増加、腎臓の尿細管上皮硝子滴の増加、血色素量の減少、血小板数の増加、活性化部分トロンボプラスチン時間の延長、雌で総コレステロール量の増加、雌雄で小葉中心部の肝細胞肥大」(環境省リスク評価書第6巻(2008))が見られた旨記述されており、区分2のガイダンス値の範囲内で、「ラットの雌で肝臓の絶対及び相対重量の増加、腎臓相対重量の増加、血色素量の減少、プロトロンビン時間の短縮等を含めた」(環境省リスク評価書第6巻(2008))旨記述されている。肝臓への影響については、ACGIH(7th, 2001)にも、区分2のガイダンス値の範囲内で、「ラットの雄で肝細胞壊死、胆管過形成がみられた」旨の記述があるため、採用する。腎臓の尿細管上皮硝子滴の増加は、雄ラットのみにもみられた症状なので採用しない。
- (ナフタレン) : ヒトへの影響で反復吸入暴露により溶血性貧血が認められたとの記述(DFGOT vol.11(1998)、EU-RAR(2003))、職業吸入暴露例において角膜潰瘍、白内障が認められたとの複数の記述(ACGIH(7th, 2001)、DFGOT vol.11(1998)、EU-RAR(2003)、NTP TR500(2000))。一方、動物試験ではラットに13週間吸入投与した試験(蒸気：6時間/日)で58ppm/day(0.3 mg/L/day)の暴露で嗅上皮の基底細胞に過形成が見られた(EU RAR(2003))との報告があり、またラット及びマウスを用いた2年間の吸入暴露試験(蒸気：6時間/日)で、10~30ppm/day(0.052~0.16 mg/L/day)で鼻腔及び気道で上皮組織の過形成が両種共通で見られ、マウスでは肺の慢性的な炎症が認められた(NTP TR 410(1992)：NTP TR 500(2000))
- (2,4-ジメチルフェノール) : ヒトでの報告は得られていない。実験動物では、ラットを用いた4週間強制経口投与毒性試験において、区分2の範囲である300 mg/kg/day (90日間換算=93.3 mg/kg/day) 投与群の雌で肝臓相対重量の増加、肝臓の類洞の拡張、うっ血がみられた(環境省リスク評価第5巻(2006))。

誤えん有害性

- : 動粘性率が不明のため、分類できないに該当。

1 2 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)	: 区分1×毒性乗率が97.5%であり、濃度限界(25%)以上のため、区分1に該当。
(シクロヘキサン)	: 甲殻類(オオミジンコ)による48時間EC50=0.9 mg/L(EU-RAR, 2004)である。
(1-デカノール)	: 藻類 (ムシカクモ) 72時間EC50 (生長速度) = 0.56 mg/L(環境省生態影響試験: 2018)である。
(ナフタレン)	: 魚類(ニジマス)での96時間LC50 = 770 μg/L(EHC 202, 1998)である。
(2,4-ジメチルフェノール)	: 甲殻類(オオミジンコ)48時間LC50 (MOR) = 2.1 mg/L(環境省リスク評価第5巻, 2006)である。
(2,4-ジメチルアニリン)	: 甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 = 9.9mg/L(AQUIRE, 2008)。
水生環境有害性 長期(慢性)	: (毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3が157.0%であり、濃度限界(25%)以上のため、区分3に該当。
(ナフタレン)	: 急性毒性区分1であり、急速分解性がない(BODによる分解度: 2%(既存点検, 1979))。
(2,4-ジメチルアニリン)	: 急性毒性区分2であり、急速分解性がない(難分解性、BODによる分解度: 0%(既存点検, 1978))。
(1-デカノール)	: 急速分解性があり(良分解、類似化学物質の分解性との比較により判定(化審法DB:2012)、藻類(ムシカクモ)の72時間NOEC(生長速度)= 0.028 mg/L(環境省生態影響試験: 2018)である。
(シクロヘキサン)	: 慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり(OECDテストガイドライン301Fによる28日間の分解度: 77%(EU-RAR, 2004))、藻類(Pseudokircheneriella subcapitata)による72時間NOEC=0.94 mg/L(EU-RAR, 2004)である。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、甲殻類(オオミジンコ)による48時間EC50=0.9 mg/L(EU-RAR, 2004)であるが、急速分解性があり(OECDテストガイドライン301Fによる28日間の分解度: 77%(EU-RAR, 2004))、生物濃縮性が低いと推測される(BCF=31-129(既存点検, 1984))。
(2,4-ジメチルフェノール)	: 急速分解性があり(28日間でのBOD分解度=91%、TOC分解度=98%、HPLC分解度=100%(経済産業公報, 2002))、甲殻類(オオミジンコ)の21日間NOEC (繁殖) = 0.27 mg/L(環境庁生態影響試験, 2001、環境省リスク評価第5巻, 2006)である。
残留性・分解性	: データなし
生態蓄積性	: データなし
土壌中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: 本製品はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

1 3 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。 都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

1 4 輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	: IMOの規定に従う。
UN No.	: 1145
Proper Shipping Name	: CYCLOHEXANE
Class	: 3
Packing Group	: II
Marine Pollutant	: Not Applicable
航空規制情報	: ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.	: 1145
Proper Shipping Name	: Cyclohexane
Class	: 3
Packing Group	: II
国内規制	
陸上規制	: 国内法令の規定に従う。
海上規制	: 船舶安全法の規定に従う。
国連番号	: 1145
品名	: シクロヘキサン
クラス	: 3

容器等級	: II
海洋汚染物質	: 非該当
航空規制情報	: 航空法の規定に従う。
国連番号	: 1145
品名	: シクロヘキサン
クラス	: 3
容器等級	: II
緊急時応急措置指針番号	: 128

1 5 適用法令

毒物及び劇物取締法	: 非該当
労働安全衛生法	: 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 別表第9 No135(2,4-ジメチルアニリン)、.232(シクロヘキサン)、408(ナフタレン) 作業環境評価基準(法第65条の2第1項) 危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)
化管法	: 非該当
化審法	: 優先評価化学物質(法第2条第5項)
消防法	: 危険物第4類引火性液体、第一石油類非水溶性液体 (法第2条第7項危険物別表第1・第4類)
船舶安全法(危規則)	: 引火性液体類(危機則第3条危険物告示別表第1)
航空法	: 引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)
海洋汚染防止法	: 有害液体物質 Y類物質(施行令別表第1) 有害液体物質 X類物質(施行令別表第1) 危険物(施行令別表第1の4)
水質汚濁防止法	: 指定物質(法第2条第4項、施行令第3条の3)
大気汚染防止法	: 有害大気汚染物質(中環審第9次答申) 揮発性有機化合物(法第2条第4項)(環境省から都道府県への通達)
土壤汚染対策法	: 非該当

1 6 その他の情報

引用文献等

ezCRIC 日本ケミカルデータベース株式会社
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)
化学品安全管理データブック、化学工業日報社
16918の化学商品、化学工業日報社(2018)
航空危険物規則書 第62版邦訳 等・他

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願い致します。